

こんな体験もあります。(視覚障がい疑似体験) ~平成23年度福祉教育セミナーより~  
提供者 特定非営利活動法人 Inclusive Fellowship Promotion 相羽大輔氏・大石甲氏

## ~触察クイズ~

ねらい：体験を通して、「見える」、あるいは「見えない」、とはどういうことを学び、  
視覚障がいの基本特性や視覚障がい者との接し方を理解する。

- ① 4名から6名のグループを作ります。
- ② 襟と裾を目張りしたTシャツの中に、飲み物のペットボトルを入れたものを配付します。※セミナーでは、炭酸と清涼飲料水のペットボトルを使用しました。
- ③ 各人がTシャツの袖から手を入れて、触覚のみをたよりにその中身を考えます。  
※Tシャツは黒等の中身が見えないものを使用します。
- ④ グループメンバーで商品名を考えます。
- ⑤ グループごとに商品名と理由を発表します。
- ⑥ Tシャツの中身を取り出して、正解を発表します。
- ⑦ 任意に感想を尋ねます。

体験後の問いかけ

- ・見て判断するのと触ってするのではどう違ったか？
- ・触るだけでわかることは何だろう？

説明

見えなかったり、見えにくいと、ペットボトルのラベルや色の情報が得られず、パッと見て商品を探したり、店員さんに探してもらったりします。これは買い物だけでなく、パッと見て全体を理解する必要がある様々な場面で同じように起こります。

品物を探したり、メニューを読み上げたり、初めて行った場所の状況説明をする、などのサポートは専門家でなくてもだれにでもできることなのです。

